

埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作

第167号

令和元年8月

令和元年度 定期総会

川越市・ウエスタ川越

令和元年六月七日(金)



会長挨拶(要旨)

会長 石田 孝作

城下町として栄え、「小江戸」の別名で親しまれている川越市において、令和元年度埼玉県退職校長会定期総会を開催の運びとなり、衷心より感謝申し上げます。

埼玉県退職校長会は、現在会員数3746名を擁し、10支部57班で構成され、全国連合退職校長会の中でも、北海道、千葉県に次いで3番目の会員数で活動しております。また、令和元年度の出発に

あたっては、新入会員191名という多数の方々をお迎えすることができました。

さて、現在、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、とくに、人工知能(AI)は、高度情報社会の牽引役として、今後一層私たち人類の暮らしを変えていく技術となると予想されます。

教育界では、新学習指導要領が、2年間の移行措置期間を経て、小学校は2020年度から、中学校は2021年度から全面実施されます。文科省は、小学校で英語の教科化やプログラミング教育の必修化により、専門的教員を増やすことが急務であるとして、各教科を専門の教員が教

1	7	総会報告
2	8	慶祝叙勲
3	9	美術展出品者
4	10	講演一要旨
5	11	平成30年度現・退職校長教育推進協議会役員名簿
6	12	全連退総会報告
7	13	一人一言
8	14	新会員の声
9	15	文芸編集後記

える「教科担任制」を導入する方針を決め、「授業の質の向上」や「授業の負担軽減」を図り、働き方改革にもつなげようとしています。

本県では、「第3期埼玉県教育振興基本計画」の概要が新たに制定されました。これを見ますと、教育を単に学校教育に委ねるだけでなく、「社会総がかり」で推進すべきこととして捉えています。今こそ、学校経営の経験者として退職校長会がお手伝いできる教育支援は何かを思索し取り組まなければならない時と考えます。

一方、福利厚生にかかわる問題につきましても、私たちの安心・安全な生活、豊かな生甲斐を保障するためには、力を合わせ取り組まねばならない課題山積の現状です。これらの状況を踏まえ、本会が令和元年度に取り組む活動のうち、三つの要点について申し上げます。

その一は、教育支援・教育要望活動の一層の充実・進展です。なかでも、本会が40有余年にわたり推進してまいりました「現職・退職校長支部別教育推進協議会」(14年前より、「彩の国教育の日」協賛事業)のより一層の充実を各支部のお骨折りで図ってまいりたいと存じます。

その二は、会員相互の福利・厚生活動の活性化の着実な推進です。新会員各位の再任用・再雇用については、校長職のキャリアを生かす活動の場の確保などの要望活動に一層努めてまいれる所存です。今後の年金支給の見通しが極めて厳しい状況となる中、将来展望の持てる制度の健全化のため、全国組織等と連携した運動を強力に推進してまいりたいと存じます。

その三は、情報の共有化による会員相互の「絆」の強化です。会報年3回、ニュースレター年2回刊行の一層の充実とともに、開設以来4年目となるHPは、訪問者数・閲覧数とも年々増加してきており、益々の有効活用を期待して

ります。なお、本年度より、「研修費」の5割の増額を図り、活動のさらなる活性化をお願いしております。人生100年時代は、生き方のモデルがない時代です。今は、一人一人が自分で人生を設計し、かじ取りをしていかなければなりません。日本の未来を担う子どもたちの夢と希望を育む教育支援と、健康で豊かな会員互助と親睦の絆を広げる退職校長会の活動が一人一人の人生にとってかじ取りの一つになればと考えております。

会員皆様のさらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

